

【第2部会】第三次佐久市総合計画策定シートに係る意見対応表

章	施策名	番号	意見	回答	対応
2	土地利用	1	都市基盤分野は数値化が難しいのは分かるが、KPIの「国土調査実施率」だけでは全体を表せていないのではないかな。	KPIについて項目を再検討します。	4 KPIの修正 「都市計画区域内人口」 基準値:98.69% R13目標値:98.71%
		2	信州未来共創戦略の中では、コンパクトとネットワークという概念に加え、「災害に強い地域を作る」といった観点でレジリエンスという言葉が入っている。ハード整備で災害に強くするのもそうだが、例えば災害で危険な場所には住まないようにしよう、といったものも含まれる。一方、住む自由の尊重と相反する部分もある。計画に落とし込みにくい部分もあると思うが、人口減少が進む中では、一つ重要な要素であるように思う。	計画の前半に記載の佐久市の主要課題のひとつに「ハード・ソフト両面での防災・減災対策による地域のレジリエンス強化が必要」があります。 これを受け、第6章防災施策にて、ソフト面では「国・県・他自治体や各種団体などとの協力関係を強化し、実効性の高い相互応援体制を構築・拡充するとともに、民間連携を深化させ、迅速な復旧・復興と市民生活の早期再建を支える広域ネットワークの強化を推進します。」という取組内容、ハード面では「国や県と連携した千曲川流域における総合的な治水対策を始め、市内全域の防災・減災に向け、ハード、ソフト、都市計画が一体となり、浸水被害を最小化する体制の構築を推進します。」という取組内容を挙げています。 ご意見いただいたレジリエンスの要素についてはこちらの施策にて網羅して参ります。	
	市街地	1	KPIに都市計画区域内人口比率とあるが、どこがこれに該当するエリアか市民には分かりにくい。市民が見て分かるようにして欲しい。	計画の資料編にて該当するエリアが分かるよう掲載します。	4 KPIの修正 「全人口に対するDID人口の割合」 基準値:19.5 R13目標値:19.5 「公民館地区館の立地数」 基準値:7施設 R13目標値:7施設
	公共施設				
	住宅	1	除却された空き家の件数をKPIにしているが、そもそも除却対象となる空き家ほどのくらいあるのか。	・明確な「除却対象としている空き家数」はありませんが、損傷や老朽化が著しい空き家(=Cランク、Dランク)が対象になります。 ただし、C及びDランクだからといって、全てが除却が必要というわけではありません。 《【5月末時点空き家数】 Cランク:304件 Dランク:23件》 ※参考 空き家ランク A:管理に特段の問題がなく、現況のまま利用可能。 B:管理が行き届いていないが、比較的小規模な修繕で利用可能。 C:倒壊の可能性は少ないが、現況のままの利用は困難。 D:倒壊の可能性があるなど、現況のままの利用は不可能。	
		2	除却件数の目標は少ないように感じる。除却対象と判断すること自体が難しい面もあると思うが、資金がなくて壊せない所有者もいる。また、連絡がつかないなど補助制度だけでは進みづらい面もあると思う。法的措置や固定資産税の扱いも関係するのではないかな。固定資産税の支払状況はどうか。進まない理由がどこにあるかを把握したい。	住宅用地特例が解除される。"空家特措法に基づく勧告件数"は次のとおりです。 ・特定空き家等:2件 ・管理不全空き家等:6件 合計8件	
		3	移住者向けの空き家活用や、移住者向けの住宅の推進といった視点が書き込める余地があるか検討してもいいのではないかな。	取組内容に反映します。	(1)空き家対策の推進一を修正 「空き家に関する相談体制の強化・充実を図るとともに、不動産関係団体などと連携し、移住・定住の受け皿など多様なニーズに対応した利活用をはじめ、市場流通や除却を促進します。」

	高速交通ネットワーク				
	地域交通ネットワーク	1	広い観点から、市民以外も何らかの形で利用できるのも一つの選択肢であるように思う	優先順位として、まず市民の生活の移動手段の確保が最重要課題であり、現状予約が取れない件数が増加している中、現デマンド事業において対象者の拡大は困難と考えています。 タクシー事業者がデマンドの運行を担っていただいております。タクシー事業者の事業存続も重要とする中、ビジネスや観光客の方にはタクシー利用をしていただくことがタクシー事業と棲み分けとしても必要だと考えています。	
		2	「利用者数」は「延べ人数」だと思うが、利用者数は実際にどのくらいか。利用している「実人数」は分かるのか	KPIの人数は延べ人数になります。(詳細な区分けは困難。) 令和6年度の実利用人数は2,611人	
3	農業	1	安定した農業経営をしたくても難しいという声を聞く。農地を増やしても、それに見合う対価が得られなければ経営として成り立たない。こうした課題をどのように考えているのか。	農業経営における採算性の確保は重要な課題であると認識しており、市としても各種補助金等による支援を行なっているところです。具体的な支援内容について、今年度策定を進めている農業振興ビジョンにおいて検討してまいります。	
		2	有機農業は農薬や除草剤を使わない分、労働力がかかる。ぜひ実践的なアイデアや事例を紹介していただければ取り組み方も増えるのではないかな。	有機農業での栽培の様子を見学できるモデルほ場の設置や見学ツアーなどを開催し、有機農業者から直接話を伺うなど、有機農業に関する理解を深めてもらう取組を行なっています。	
	林業	1	有害鳥獣の駆除に従事する担い手の高齢化や減少が進むと被害拡大の懸念があるが、対策はしているのか。	狩猟等免許取得に対する補助金のほか、わな猟講習会などを通じ、狩猟に興味のある方、農林業被害に困っている方に対して、県林務課と連携し、狩猟免許取得を促しています。	
		2	所有者自身も山林の範囲が分からないことが多く多い。所有者が管理をしないのは、自分の所有範囲が分からないという所から始まっているのかもしれない。国土調査のように、山林も所有の範囲を明確にすることが必要ではないかな。	第2章の土地利用施策において、国土調査の推進を掲げており、山林につきましても引き続き地籍調査に取り組んでまいります。	
		3	移住セミナーなどに行くと、仕事先に悩んでいる方が多くいる。そうした方を林業の担い手となってもらうシステムを作れば、興味を持っている若者などと呼び込めるのではないかな。農業体験のように、林業においても、体験やセミナーなどに取り組んでもおもしろいのではないかな。	林業従事者の確保のため、県や森林組合などの関係機関と相談してまいります。	
	水産業	1	カワウが非常に増えており、川の魚が食害に遭う深刻な状況。追い払いなどの対策を行なっているが、効果が得られていない。市としても支援をお願いしたい。	生産の安定化に向け、関係機関と相談してまいります。	
		2	佐久鯉のレシピ紹介にとどまらず、栄養面でのメリットもPRしていけば、佐久鯉の消費量増加につながるのではないかな。	佐久鯉の料理教室において栄養面の説明を行うなど、佐久鯉の魅力を紹介しております。策定シート(2)に記載のとおり、水産物のブランド化に向け、いただいたご意見も踏まえたPRを積極的に行い、消費拡大を図ってまいります。	
		1	「企業誘致の推進」から「企業立地の推進」と変更されている。既存企業に配慮することも大事だが、中部横断自動車道の開通などを考えると、見出しを「企業立地の推進」へ舵を切ってよいのか。佐久市は県内でも交流の拠点となる重要な場所なので、もう少し外から呼んでくる意味合いがあってもおかしくないと思う。	今回の変更につきましては、企業誘致の側面と、市内企業の活性化、両方を踏まえた表現として整理しております。策定シート(2)の1や(3)1に記載のとおり、本市の優れた立地条件や災害リスクの低さなどを生かし、企業ニーズに応えることができる工業団地の確保や企業立地を促進してまいります。	

	工業	2	本市の「健康長寿」の強みを生かした企業誘致や新たなイノベーションを創出する取組も必要ではないか。	策定シート(1)の2に記載のとおり、健康長寿などの地域の特徴を生かしたヘルスケア関連産業などについて、産学官連携による支援を実施してまいります。	
		3	今後、AIが入ってくることによって、工業の形がどう変わるかを想定しておく必要がある。10年先を考えると、従来型の工業誘致とは異なる視点も必要ではないか。	急速に進展するAIを始めとするデジタル技術は、産業構造や社会生活のあらゆる分野に変革をもたらすものと認識しております。 10年先を見据えた中で、いただいたご意見を大切な視点として今後の事業の参考としてまいります。	
	商業・サービス業	1	佐久市には優れたコンテンツがあると思うが、この計画からはそれが十分に伝わってこない。日本三大ケーキのまちや北斗の拳、新海監督の作品など、他の地域にはない魅力的なコンテンツをもっと発信していくべきではないか。	観光施策(3)の2に記載のとおり、「北斗の拳」などの漫画・アニメコンテンツを活用した観光客の誘致拡大を図ってまいります。 また、右記のとおり観光施策の取組内容を修正します。	観光施策(1)の2を修正 「佐久鯉、龍岡城五稜郭、11の酒蔵、日本三大ケーキのまちなどの本市の観光コンテンツを生かし、ニーズに合わせた体験型・着地型観光を推進することで、リピーターの確保と滞在時間の増加を図ります。」
		2	中小企業への資金需要に対する支援について、政策金利が上がっている中、県や周辺市町村の制度資金との比較も含め、このままでよいとは限らない。佐久市の制度資金は使いやすいという声を聞く一方、外部環境が変われば使われなくなるリスクもある。外部環境を捉えた政策が必要である。	本市としても重要な課題として捉えております。金利上昇を始めとする社会経済情勢の変化や事業者のニーズに合った制度融資となるよう検討してまいります。	
	観光	1	本市の観光は、通りすがりの面があるので、滞在型の観光も必要ではないか。そういった場合に、宿泊施設が足りていない。	策定シート(2)の2に記載のとおり、ニーズに合わせた体験型・着地型観光を推進することで、リピーターの確保と滞在時間の増加を図ってまいります。	
		2	イベントがあるだけで、通年で来たい観光地があるかという弱い面がある。また、大勢の人が来るのに対応できていない。観光地ではなく、住みやすいまちを押し出す方向でも良いのではないか。他ではできないことを佐久市ではできることをアピールしていくのも一つの手だと思う。	ご意見として承ります。 策定シート(1)の2に記載のとおり、本市ならではの観光コンテンツに磨きをかけてまいります。	
	就労・雇用	1	策定シート(2)の1「女性が変化するライフステージに応じて」と女性に特化しており、現行計画にある高齢者、障がい者、外国人などの雇用について触れられていないが問題ないか。	策定シート(2)の1の内容は残しつつ、右記の現行計画の取組内容を追加します。	「関係機関との連携を図り、女性、高齢者、障がい者や外国人などの雇用の促進を図ります。」を次期計画においても記載